

職場において対応に苦慮するメンタル不調者への対応 - 事例検討を中心に

トヨタ自動車(株)本社産業医  
ゆうあいクリニック院長

浦上年彦

最近、職場においてメンタル不調を訴える従業員が増加しています。また、職場環境の変化や労働者自身を取り巻く環境の変化の影響もあり、訴えや要因も多岐にわたっています。その中でも下記のような事例が問題になっています。

再発を繰り返す気分障害（特に双極性障害）、発達障害、パーソナリティー障害、ディスチミア親和型うつ病、職制に能力がついていけない、過重労働やハラスメント、仕事以外の要因が重なった事例等。

産業医は、このようなメンタル不調者に対し保健スタッフ等の協力のもと就業可否判断をすることが重要な役割です。すなわち、就業を継続させるべきか、就業配慮をするべきか、または休養を指示すべきかを判断しなければなりません。ところが、現実に対応に苦慮している産業医が多く、中には現場の意見も聞かず主治医の意見をそのまま受け入れてしまう産業医も散見されます。しかし、対応を誤ると本人のみならず、現場が疲弊してしまい、新たにメンタル不調者を出してしまう恐れがあります。

今回、このような対応に苦慮するメンタル不調者の事例を提示し、その対策、就業の可否判断について、お話しさせていただきます。歯科医院経営者ならびに現場のスタッフの方々の一助となれば幸いです。

[略歴]

- 1981年 名古屋市立大学医学部卒業、同年4月 名古屋市立大学第2外科入局  
1982年 豊川市民病院 外科医員  
1985年 名古屋市立大学第2外科 臨床研究医、助手を経て  
1988年 国保 前島病院 外科医長  
1990年 名古屋市立大学医学部大学院 助手  
1991年 トヨタ記念病院呼吸器外科医長、部長を経て呼吸器、内視鏡外科部長  
およびトヨタ自動車(株)メディカルサポート部、安全健康推進部主査  
(兼任)、本社産業医、本社診療所長(兼任)  
2008年4月 ゆうあいクリニック開設、トヨタ自動車(株)本社産業医は継続

医学博士、呼吸器学会専門医、呼吸器外科学会特別会員、労働衛生コンサルタント、日本産業衛生学会代議員、三重大学医学部、大阪市立大学医学部非常勤講師ほか